

基本技術の励行による 水稲収量の高位安定化

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

高島市マキノ町の水稲の単収は他の地域に比べて低く、令和元年産の「みずかがみ」および「コシヒカリ」の環境こだわり栽培である「清水桜」、「魚のゆりかご水田米」は、単収 339 kg/10a でした。大規模農家の後継者から経営の不安や離農の相談がある中で、低単収は地域の担い手が育たない大きな要因となっています。このことから、生産者や JA と協力して実証ほを設け、単収が低下している要因を調べて対策を検討し、研修会や全戸配布の農産普及課情報紙を使った指導で、マキノ町環境こだわり米栽培グループに対する単収向上を目指しました。

【普及活動の内容】

単収 540 kg/10a を得るには茎数 500 本/m²、穂数 400 本/m²を確保する必要がありました。そこで、栽植密度の見直しや適量施肥、還元害対策、適切な水管理についての研修会や指導を行いました。

令和元年および2年の調査で、茎数不足の主な原因は過度な疎植、分けつ期の還元害、施肥不足と考えられました。このことから、令和3年は、栽植密度 60 株/坪植、基肥の基準量施肥、生育量に応じた6月追肥に加えて、還元害対策として秋鋤、硫安系肥料の基肥施用、5月下旬の田干し、常発地での石膏資材散布を重点指導事項としました。

これらの対策は関係機関と協議して情報を共有し、農業者へは集団への現地指導とし、当課やJAの情報紙、関係機関の郵送物も活用しました。

【普及活動の成果】

実証ほおよび各グループの単収は、一部、目標に達しなかったものもありましたが、対策技術の有効性が確認できました。これまでの改善点を踏まえ次年度に向けた指導内容を作成し、JA等関係機関で合意を得て、指導を継続し単収向上を目指します。



写真1 研修会の様子

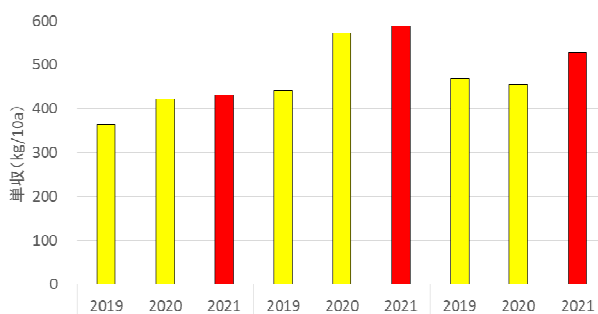


図1 水稲の各生産グループの実証ほにおける単収推移

◎対象者の意見

米価が下落しており、収益を確保するため単収を高めたい。対策の指導に期待している。
(生産者)